

普代のことが 少し分かりました

安西さん・柴内さん（久慈東高2年）が職場体験

県立久慈東高校（高橋徹秀校長、生徒七百六十八人）商業科二年の安西樹里さんⅡ上区Ⅱと柴内真紀子さんⅡ旭日区Ⅱの二人は二月一から三日のまでの三日間、役場や普代児童館（野崎貞信館長、園児八十五人）などで職場体験をしました。

二人は税務課や保健福祉課、教育委員会事務局などでそれぞれの職員から初歩的な仕事を教わったり、特別養護老人ホーム「うねとり荘」（斉藤正明施設長、入所者五十八人）や普代児童館、子育て支援室なども見学しまし



得意のパソコンを教える柴内さん（左）と安西さん（右）

た。ふれあい交流センターで開かれていた子どもたちにパソコンを開放している「普代つ子広場」事業の体験では、恥ずかしそうに、子どもたちに得意のパソコンの操作を教えていました。

普代が大好きという安西さんと柴内さんは「普代のことを、もっと知りたくて役場を希望しました。税務課では消費税とか所得税の基本が分かったし、児童館では子どもたちとかくれんぼをして楽しかったです。この体験でいろいろなことが分かって良かったです。三日間有り難うございました」と話していました。

この就業体験は、体験的な学習を通して、勤労の尊さと社会奉仕の心を学ぶことを目的に行われています。



園児らのテープカットで出発を祝う関係者

園児らがテープカット

三鉄「お絵かき列車」が運行開始

普代児童館（野崎貞信館長、園児八十五人）のさくら（年長）組の児童がかいた絵二十六点を展示した、三陸鉄道（竹沢久嗣社長）のキャンペーン列車「よくできました号」が一月二十四日、園児らのテープカットで運行を開始しました。

出発式は三陸鉄道の普代駅で行われ、園児や父母らが見送る中、竹沢社長、深渡宏村

長ほか、さくら組の中田通雄くん、大上ほのかちゃんの人も加わり、テープカットが行われました。

列車に乗車した園児らは、笑顔で「いつてきまーす」と手を振り、普代―久慈間の一往復を、自分たちがかいた絵や列車からの景色を見ながら楽しんでいました。このキャンペーン特別列車は三月まで運行します。

子どもとともに成長を

子育て講座にお母さん40人が参加

村教委主催の第四回子育て講座は一月二十一日、自然休養村管理センターで行われ、お母さん方や教職員ら約四十人が参加しました。

講師には、遠野市立遠野小学校の菊池敦子教頭を迎え、「親が子にしてあげられること」と題して、望ましい親子関係や家庭教育のあり方について講演をいただきました。

菊池先生は「親の成長する姿を見せてあげることが大切です。子どもが悩んだときに



子育て講座にはお母さんなど約40人が参加しました

は、すぐに結論を出さずに、こういうときは、つらいんだ」と話して、子どもと一緒に悩んであげよう」と訴えていました。

参加したお母さんは「人を育てる難しさを感じました」「これからは、子どもと一緒に成長できる親になりたいと思います」と感想を話していました。

子育て講座は、幼児や小学生の子どもを持つ親を対象に、親の役割などを学ぶことを目的に年四回開かれています。